

Support Program  
**研修**  
**NGO・NPO**  
 サポートプログラム紹介  
**講座**

**研修講座の活用**

地球環境基金では振興事業の一つとして、環境保全活動に取り組むNGO・NPOを対象に、様々な研修講座を開催しています。今回は、この振興事業のアドバイザーを務める今永正文さんに、地球環境基金の研修講座をどう活用すべきかコメントをいただきました。併せて、海外派遣研修参加者の感想をご紹介します。

■より質の高い研修講座を目指して

今永さんは、地球環境基金が主催している研修講座を第三者の目から見て評価するアドバイザーで、講座の内容や進め方はもちろんのこと、参加者の募集方法等についてまで幅広く検証しています。実際には、どのように検証を行っているのでしょうか？ チェックシートの一部を見せていただいたところ、チラシ、集客、会場、スタッフ、講義、実習...と、多岐にわたるチェック項目が並んでいます。しかも、それぞれの項目がさらに細分化されており、例えばチラシでは、アイキャッチがあるか、紙面構成が適切であるか、申込方法が分かりやすいか等11項目。講義では、説得力があるか、具体的な事例が挿入されているか、内容が詰め込みすぎでないか等17項目。このシート等をもとに、講座を実際に見聞きしながら検証するそうです。

「自分でもいろいろところで講師をさせていただいているので、その経験からも押さえておくべき点は、ある程度体系化できています」

「研修講座というと、講師のキャリアや講義内容に気を取られやすいのですが、対象とする人をどのように集め、参加者に何をどう持ち帰ってもらおうか、そこまでトータルに考える必要があります」

■講座を受ける人へのアドバイス

講座を受ける人に対しては、どのようなアドバイスがあるのでしょうか？ 3つのポイントを挙げてもらいました。

「第1のポイントはプログラムをチェックすること。プログラムはホームページやチラシで紹介されているので、まずはこれを見て講座

流。研修講座の内容とは直接関係ありませんが、志を同じくする者同士が集まるということは、活動していく上での知恵やノウハウが集まる場であるとも言えます。『こんな時はどうする』『こんなことやったことありますか』、そういったことをお互いに話し合うことも大切です。研修講座は、交流のきっかけを作る場としても見逃せません。そして、『プログラムには、すぐに活動に活かせるものもあれば、将来活かせるものもあります。このことも重要です。目先も大事だけど、3年後5年後のことも考えなくてはなりません。その辺りのバランスをうまくとって受講してください』。基金の研修講座を裏方として支える今永さんならではの言葉です。

**何かを変えた10日間**

沖縄県立那覇国際高等学校教諭  
**神村智子さん**

環境保全活動の実態はどうなっているか、環境問題の解決には何が必要なのだろうか...。そんなテーマを持ち、参加した海外派遣研修。研修先や村で出会った人たちから様々なことを学びながら、研修員同士で環境保全活動について考えました。高校で教鞭を執っている私にとって、環境教育のための知識や教材を得ただけでなく、たくさんの人たちとの出会いが何かを変えた10日間だったように感じます。

環境保全活動では、環境NGOが専門研究員を置いたり、企業や政府のバックアップ



現地研修地での神村さん(最前列右端)

を得て、主体的に問題解決に努めていることを知り、この活動にもっと注目すべきだと感じました。また環境問題の解決には、現状把握や歴史的背景への理解力や行動力が必要であることを再認識しました。今回の研修で得たネットワークをこれからも活かし、ESD(持続可能な開発のための教育)を行っていききたいと思っています。

**プログラムをチェック!**

**ステップアップの場にする!**

**参加者同士の交流の場にする!**

**研修・講座  
 活用のハウツー**



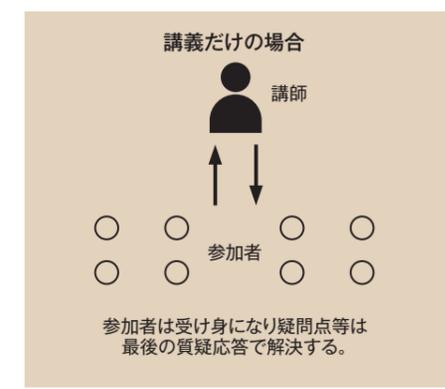
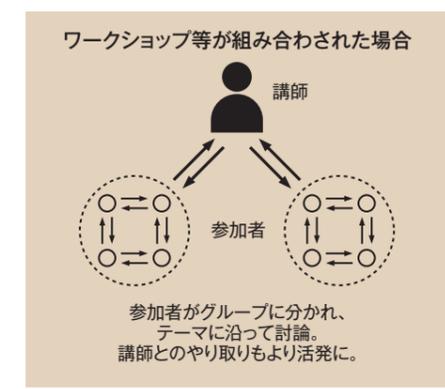
**今永 正文さん**

プロセスコンサルタントWARAKU代表、ファシリテーター。プロセスコンサルタントとして様々な分野で活躍するかたわら、自身も環境保全や地域振興の現場で活動しています。お話を伺ったのは、NPO活動や市民活動を行う個人・団体をサポートする施設である静岡市番町市民活動センター。掲示板には様々なチラシ等が貼られていました。

の構成や研修の手法をチェック。昔は、講師の話聞いて、それで納得して帰るパターンが多かったのですが、今はそれだけではなく参加者が主体的に関わることができ、講座も増えていきます。そのところを確認して欲しいですね」

「第2のポイントはステップアップの場であることを意識すること。活動経験のある方々が受講するわけですから、そこをしっかり意識して参加すれば、研修講座で得られる新しい知識や視点をより実践的なものとして取り入れることができます」

「そして、第3のポイントは参加者同士の交



**研修講座  
 参加者の声**

平成24年度の研修講座「海外派遣研修(マレーシア)」に参加された、神村智子さんと齊藤桃子さんのお二人から、研修講座に参加された感想を寄稿していただきました。

**PCM(Project Cycle Management)を大学に提案**

日本大学 国際関係学部4年  
**齊藤桃子さん**

研修前は、「環境問題」や「生物多様性」は何となく重要だとは分かっていたものの、正直、自分とは少しかけ離れた問題だと思っていました。しかし、研修を通してそこに生息する生物やそこに住む人々、現地で働いているNGO等の取組みを実際に「見る・体験する」ことで、守るべき身近な問題だと感じるようになりました。

研修後は日本の現状を知らないことに気づき、実際に「見る・体験する」ことを心がけるようになりました。ラムサール登録湿地である日光の戦場ヶ



現地研修地で地元の方と一緒に

原に足を運び、日本とマレーシアの環境教育を比較しながら見る事ができました。また、現地で知ったPCMという当事者の意見を収集するノウハウを大学で行うよう提案をしたところ、即座に採用されました。富岡丈朗先生とのつながりがあったからこそできたことです。引率してくださった方々や研修生と今でもつながりがあることが刺激になっています。